香川県埋蔵文化財センター年報

令和４年度

香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅺ

2024.2

香川県埋蔵文化財センター

は　じ　め　に

香川県埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の発掘調査、資料の保存と活用、研究を行っています。多様で豊かな地域の歴史を明らかにし、県民の皆様へお伝えし還元することに取り組み続け、設立から36年が経ちました。

本書は、令和４年度の事業報告である年報と、職員等による調査研究の成果を収めた研究紀要から成ります。

年報では、国・県による開発事業に伴い実施した４遺跡の発掘事業と９遺跡の整理事業、県民を対象とした遺跡の現地説明会や体験講座・考古学講座、ボランティア活動等の普及・啓発事業、讃岐国府跡の地下遺構の確認を目的とした讃岐国府跡調査事業、直島町を対象に地域の成り立ちを明らかにする地域総合調査事業、等の事業について報告します。

研究紀要では、４本の論文を掲載します。いずれも既存の調査･研究成果に対し、新たな知見を加え、また問題提起するものであり、埋蔵文化財や考古学への認識を深めることに貢献できれば幸いです。

最後になりますが、事業を進めるにあたり御協力いただいた関係諸機関や地域の方々に感謝申し上げ、引き続き御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和６年２月

香川県埋蔵文化財センター
所　長　　佐藤　竜馬

香川県埋蔵文化財センター年報　令和４年度

本文目次

Ⅰ　組織・施設・決算(総務課)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　香川県埋蔵文化財センターの組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2　施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　3　決算の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅱ　事業概要・・・2
　1-1　発掘調査事業(調査課・資料普及課長)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　　（1）国土交通省関係の発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　　（2）県土木部関係の発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1-2　整理事業(調査課・資料普及課長)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　　（1）国土交通省関係の整理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　　（2）県土木部関係の整理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1-3　発掘調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　　中山・中山北遺跡(溝上)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　　樋ノ口遺跡(溝上)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　沖遺跡(溝上)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　　岡遠田遺跡(稲垣)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　　岡遠田南遺跡(溝上)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　2　普及・啓発事業(谷本)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　（1）展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　（2）発掘調査現地説明会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　（3）講師の派遣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　（4）体験講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　（5）考古学講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　（6）人材育成講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　（7）まいぶんボランティア活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　（8）新聞記事掲載・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　（9）資料の貸出・利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　⑽ 職場体験学習・インターンシップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　⑾ 刊行物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　⑿ ホームページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　3　讃岐国府跡調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　（1）発掘調査（小野）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　（2）地域との交流(谷本)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　（3）情報発信(谷本)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　（4）関連行事(谷本)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　4　地域総合調査事業(小野)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　（1）事業趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　（2）分布調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　　（3）発掘調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　　（4）報告会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

挿図目次

第１図　発掘調査遺跡位置図（1/800,000）……3
中山・中山北遺跡
第２図　遺跡位置図（1/25,000）……4
第３図　遺構配置図（1/250）……5
樋ノ口遺跡
第４図　遺跡位置図（1/25,000）……7
第５図　畦畔配置図（1/250）……7
沖遺跡
第６図　遺跡位置図（1/25,000）……8
第７図　遺構配置図（1/300）……9
岡遠田遺跡
第８図　遺跡位置図（1/25,000）……10
第９図　調査区配置図（1/4,000）……10
第 10 図　遺構配置図（北部）（1/600）……11
第 11 図　遺構配置図（南部）（1/600）……11
岡遠田南遺跡
第 12 図　遺跡位置図（1/25,000）……13
第 13 図　遺構平面図（1/300）……14
讃岐国府跡調査事業
第 14 図　遺跡位置図（1/25,000）……17
第 15 図　トレンチ１・２遺構配置図（1/200）……18
地域総合調査事業
第 16 図　事業対象地……20
第 17 図　積浦遺跡　トレンチ配置図（1/300）……22

写真目次

中山・中山北遺跡
写真１　中山・中山北遺跡全景（北から）……4
写真２　中山遺跡７区全景（西から）……6
写真３　中山北遺跡 SE1002 完掘（西から）……6
樋ノ口遺跡
写真４　２区全景（北から）……7
写真５　３区東壁（北から）……8
沖遺跡
写真６　５区全景（南から）……8
写真７　４区 SD4018 断面（北から）……8
岡遠田遺跡
写真８　17 区遠景（西南から）……12
写真９　SH17020 完掘状況（西から）……12
写真 10　SH17080 完掘状況（南から）……12
写真 11　SK17001 土器出土状況（南から）……12
写真 12　21 区遠景（南から）……12
写真 13　ST21001 土器出土状況（南から）……12
写真 14　23 区出土の須恵器と土馬……12
写真 15　22 区遠景（北から）……12
岡遠田南遺跡
写真 16　１区全景（西から）……14
写真 17　２区全景（西から）……15
写真 18　２区全景（北から）……15
讃岐国府跡調査事業
写真 19　SB01 全景（北から）……17
写真 20　SD01 完掘全景（北から）……18
写真 21　SE03 半裁（北東から）……18
写真 22　１トレンチ全景……19
（東から　手前の溝が SD02）
写真 23　２トレンチ全景（南から）……19
地域総合調査事業
写真 24　井島石切丁場遺跡（第２地点）……21
写真 25　１トレンチ礫敷遺構検出状況（北から）……22

表目次

第１表　職員一覧……1
第２表　発掘調査決算……2
第３表　整理・報告決算……2
第４表　管理運営費等決算……2
第５表　発掘事業一覧……3
第６表　発掘事業の概要……3
第７表　整理作業一覧……4
第８表　刊行報告書一覧……4
第９表　展示一覧……15
第 10 表　入館者数一覧……15
第 11 表　センター外展示一覧……15
第 12 表　現地説明会一覧……15
第 13 表　出前授業一覧……15
第 14 表　体験学習講座一覧……15
第 15 表　講演等への講師派遣一覧……15
第 16 表　体験講座実施事業一覧……16
第 17 表　考古学講座一覧……16
第 18 表　人材育成講座一覧……16
第 19 表　資料貸出・利用一覧……16
第 20 表　職場体験学習一覧……16
第 21 表　情報発信一覧……20
第 22 表　関連行事一覧……20

香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅺ

令和４年度

目　次

次見遺跡の研究
信里芳紀・村上恭通…… 23

青塚古墳の墳形復元について
真鍋貴匡…… 39

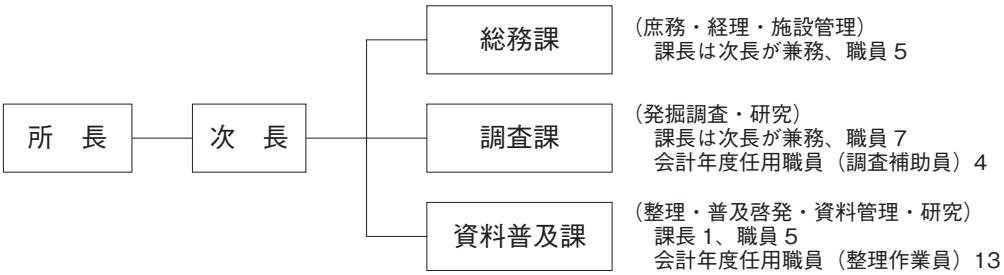
６～７世紀の土器から見た西讃地域
佐藤竜馬…… 44

陶邑窯における須恵器の変遷について－７世紀を中心に―
佐藤竜馬…… 51

Ⅰ　組織・施設・決算

１　香川県埋蔵文化財センターの組織

（1）組　織



（2）職　員

所　属	職　　名	氏　　名
	所　　長	高 原　　康
	次　　長	北山　健一郎
総務課	課長（兼務）	北山　健一郎
	副　主　幹	髙 原 保 弘 (1月～)
	主　　任	岩 西　浩 二 (～8月)
	主　　任	石田　こずえ
	主　　任	松 浦　佐 和
	主　　任	遠　山　　豊
	主　　任	寺 尾　一 夫
調査課	課長（兼務）	北山　健一郎
	主任文化財専門員	小 野　秀 幸
	主任文化財専門員	長 井　博 志
	主　　任	岡　　孝 哲
	主任技師	益 崎　卓 己
	技　　師	稲　垣　　僚
	技　　師	溝 上　千 穂
	技　　師	青 野　光 留
	会計年度任用職員（調査補助員）	今 井　由 佳
	会計年度任用職員（調査補助員）	名 倉　美 保
	会計年度任用職員（調査補助員）	徳 永　貴 美
	会計年度任用職員（調査補助員）	正本　由希子

所　属	職　　名	氏　　名
資料普及課	課　　長	信 里　芳 紀
	主任文化財専門員	蔵 本　晋 司
	主任文化財専門員	小 野　秀 幸
	主任文化財専門員	山 元　素 子
	文化財専門員	森 下　友 子
	技　　師	谷 本　峻 也
	会計年度任用職員（整理作業員）	北 濱　敦 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	小早川　真由美
	会計年度任用職員（整理作業員）	土 井　美 穂
	会計年度任用職員（整理作業員）	中 野　優 美
	会計年度任用職員（整理作業員）	加 藤　恵 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	大 山　和 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	小林　奈充子
	会計年度任用職員（整理作業員）	山本　基公美
	会計年度任用職員（整理作業員）	佐 立　晶 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	池 内　妙 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	大林　真沙代
	会計年度任用職員（整理作業員）	森　　后 代 (～1月)
	会計年度任用職員（整理作業員）	池　田　　匠

第１表　職員一覧

２　施設の概要

（１）所 在 地　香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

（２）敷地面積　11,049.23㎡

（３）建物構造・延床面積

①本　館　　鉄筋コンクリート造・２階建
1,362.23㎡
（一部鉄骨造・平屋建）

②分　館　　軽量鉄骨造・２階建
337.35㎡

③第１収蔵庫　鉄骨造・２階建　1,525.32㎡

④第２収蔵庫　鉄骨造・３階建　2,040.33㎡

⑤車　庫　　鉄骨造・平屋建　29.97㎡

⑥自転車置場　鉄骨造・平屋建　25.00㎡

３　決算の状況

（単位：千円）

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	樋ノ口遺跡	17,424
	中山・中山北遺跡	18,199
道路課	沖遺跡	11,725
	岡遠田遺跡	72,937

※職員人件費は除く。

第２表　発掘調査決算

（単位：千円）

事業名		決算
管理運営費等	管理運営費	4,350
	職員給与費	118,647
	讃岐国府跡調査事業	3,378
	地域総合調査研究事業	999
	合計	127,374

第４表　管理運営費等決算

（単位：千円）

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	内間遺跡	13,932
	城泉遺跡等（基礎整理）	1,575
道路課	沖・沖南遺跡	10,931
	池内古田・池内御所原遺跡	3,502
	上道池東遺跡	5,072
	森広遺跡	18,061
	西村遺跡	7,664
	岸の上遺跡	1,886
	横井南原・上道池東遺跡	785

※職員人件費は除く。

第３表　整理・報告決算

Ⅱ　事業概要

１-１　発掘調査事業

（１）国土交通省関係の発掘調査

国道関係の埋蔵文化財の発掘調査は、香川県教育委員会と四国地方整備局香川河川国道事務所との間で令和４年４月１日に締結した「埋蔵文化財発掘調査委託契約」に基づき、香川県埋蔵文化財センターを調査担当として実施した。

本発掘調査の対象箇所は、一般国道 11 号大内白鳥バイパス（４工区）と国道 11 号豊中観音寺拡幅（３工区）である。一般国道 11 号大内白鳥バイパス（４工区）は、東かがわ市中山に所在する中山遺跡、中山北遺跡であり、調査対象面積は 1,005㎡で、令和４年 10 月１日から令和４年 12 月 31 日の３か月の期間で実施した。中山遺跡は、令和２年度発掘調査範囲の残地部分を対象とし、弥生時代から江戸時代の旧河道、室町時代の大型土坑跡を検出した。中山北遺跡は、中山遺跡の北側に隣接地を対象とし、縄文時代晩期の住居跡、室町時代から江戸時代の溝跡、井戸跡を確認した。

国道 11 号豊中観音寺拡幅（３工区）は、観音寺市本大町に所在する樋ノ口遺跡であり、調査対

象面積は524㎡で、令和４年７月１日から同年９月30日の３か月で発掘調査を実施した。調査の結果、室町時代の水田跡や江戸時代の土坑跡、溝跡を検出した。

（２）県土木部関係の発掘調査

県土木部関係の発掘調査は、県教育委員会と土木部との間で４月１日に締結した「道路事業における埋蔵文化財発掘調査業務に関する協定書」に基づき、埋蔵文化財センターを調査担当として実施した。

本発掘調査対象箇所は、国道438号（飯山工区）の沖遺跡、岡遠田遺跡である。沖遺跡は、丸亀市飯山町上法軍寺に所在し、今年度は過年度調査の残地部分1,543㎡を対象として実施し、古墳時代の大型水路跡を検出した。岡遠田遺跡は、丸亀市飯山町上法軍寺の更新世の台地上に位置する遺跡で、昨年度から継続して路線南側へ本発掘調査を展開した。調査面積は7,000㎡であり、年度末の調査工程の都合から岡遠田南遺跡の範囲（1,500㎡）を含む。岡遠田遺跡では、弥生時代後期前葉から中葉の排水溝を敷設する竪穴建物群、古墳時代後期から古代、古代末から中世前半の大型掘立柱建物を検出した。同路線については、次年度以降も岡遠田南遺跡等の本発掘調査が予定されている。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	期間
国土交通省	一般国道11号大内白鳥バイパス	中山遺跡・中山北遺跡	東かがわ市中山	1,005	令和４年10～12月
	国道11号豊中観音寺拡幅	樋ノ口遺跡	観音寺市本大町	524	令和４年７～９月
県土木部道路課	国道438号（飯山工区）	沖遺跡	丸亀市飯山町上法軍寺	1,543	令和４年４～６月
		岡遠田遺跡	丸亀市飯山町上法軍寺	7,000	令和４年４～令和５年３月

第５表　発掘事業一覧

遺跡名	概要	主たる遺構・遺物
中山遺跡・中山北遺跡	縄文晩期の竪穴建物跡、中世～近世の旧河道	縄文土器、土師質土器
樋ノ口遺跡	中世後半の水田跡	土師質土器、青磁
沖遺跡	古墳時代の大型水路跡	弥生土器、土師器
岡遠田遺跡	弥生後期の竪穴建物群、古墳後期～古代の掘立柱建物跡、古代末～中世初頭の大型建物群	弥生土器、須恵器、土師質土器、勾玉

第６表　発掘事業の概要

1-2　整理事業

（１）国土交通省関係の整理事業

国道関係の整理作業は、一般国道11号大内白鳥バイパス（１・３工区）で、上記契約書に基づき実施した。一般国道11号大内白鳥バイパス（３工区）は、東かかわ市町田に所在し、平成26・27・29年度に9,698㎡の発掘調査を実施した内間遺跡であり、今年度は木製品等の実測や遺構図作成、報告書編集等を実施した。次年度以降に報告書刊行の予定である。一般国道11号大内白鳥バイパス（１工区）は、東かがわ市白鳥に所在し平成30年度、令和２年度に発掘調査を実施した城泉遺跡から出土した木製品の保存処理と、令和３年度に発掘調査を実施した城泉遺跡、城泉東遺跡、赤坂古墳群の出土遺物の注記作業を実施した。

（２）県土木部関係の整理事業

県土木部関係の整理事業は、上記協定書に基づき、国道438号（飯山工区）の沖遺跡、沖南遺跡と、県道円座香南線（香南工区）の池内古田遺跡、池

第１図　発掘調査遺跡位置図（1/800,000）

内御所原遺跡、上道池東遺跡、県道高松長尾大内線の森広遺跡、県道府中造田線の西村遺跡を対象としている。沖遺跡、沖南遺跡は平成30年度及び令和元年度の本発掘調査部分を対象とし、主に古代末から中世の集落跡を検出している。県道円座香南線（香南工区）の池内古田遺跡等は、令和元・２年度の本発掘調査箇所を対象とし、今年度で整理作業が完了したため、下半期に２冊の報告書を刊行した。発掘調査では、中世から近世の集落跡（池内古田遺跡等）、飛鳥時代の土師器焼成坑（上道池東遺跡）が確認されている。県道高松長尾大内線の森広遺跡は昭和52・53年度、県道府中造田線の西村遺跡は昭和53年度に本発掘調査を実施した後に整理作業が未了となっていた遺跡で、土木部と協議を行った結果、森広遺跡は同路線の布勢遺跡とともに今年度から令和10年度まで、西村遺跡は今年度から令和６年度までの予定で整理事業を行うこととなった。森広遺跡の本発掘調査では、弥生時代後期、古代の集落跡、西村遺跡では中世前半の土器生産関係の集落跡が確認されている。

その他、令和３年度まで整理作業を実施してきた国道438号（飯山工区）の岸の上遺跡（丸亀市飯山町川原）の調査報告書を刊行した。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	期間
国土交通省	一般国道11号大内白鳥バイパス	内間遺跡	東かがわ市町田	令和４年７～12月
県土木部道路課	国道438号（飯山工区）	沖遺跡	丸亀市飯山町上法軍寺	令和４年５・６月
		沖南遺跡	丸亀市飯山町上法軍寺	令和５年１～３月
		岸の上遺跡	丸亀市飯山町川原	報告書刊行(前年度整理)
	県道円座香南線（香南工区）	池内古田遺跡	高松市香南町池内	令和4年4月、報告書刊行
		池内御所原遺跡	高松市香南町池内	令和4年4月、報告書刊行
		上道池東遺跡	高松市香南町池内	令和４年4･5月、報告書刊行
		横井南原遺跡	高松市香南町横井	報告書刊行(前年度整理)
	県道高松長尾大内線	森広遺跡	さぬき市寒川町石田東	令和４年６～12月
	県道府中造田線	西村遺跡	綾歌郡綾川町陶	令和５年１～３月

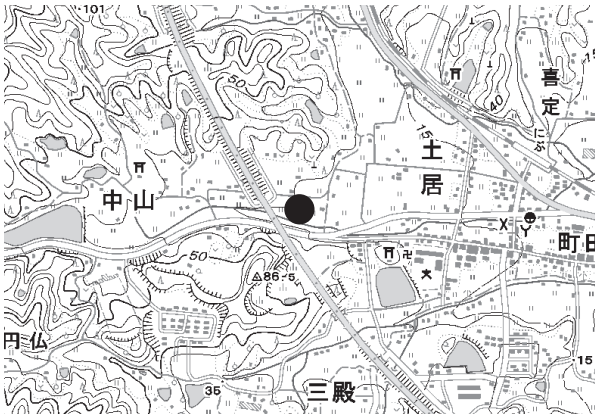
第７表　整理作業一覧

書名	副書名	刊行年月日
池内古田遺跡 池内御所原遺跡	県道円座香南線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第３冊	令和５年２月28日
横井南原遺跡 上道池東遺跡	県道円座香南線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第４冊	令和５年３月３日
岸の上遺跡Ⅱ	国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第８冊	令和５年３月10日

第８表　刊行報告書一覧

１-３　発掘調査の概要

中山（なかやま）・中山北（なかやまきた）遺跡



第２図　遺跡位置図（1/25,000）

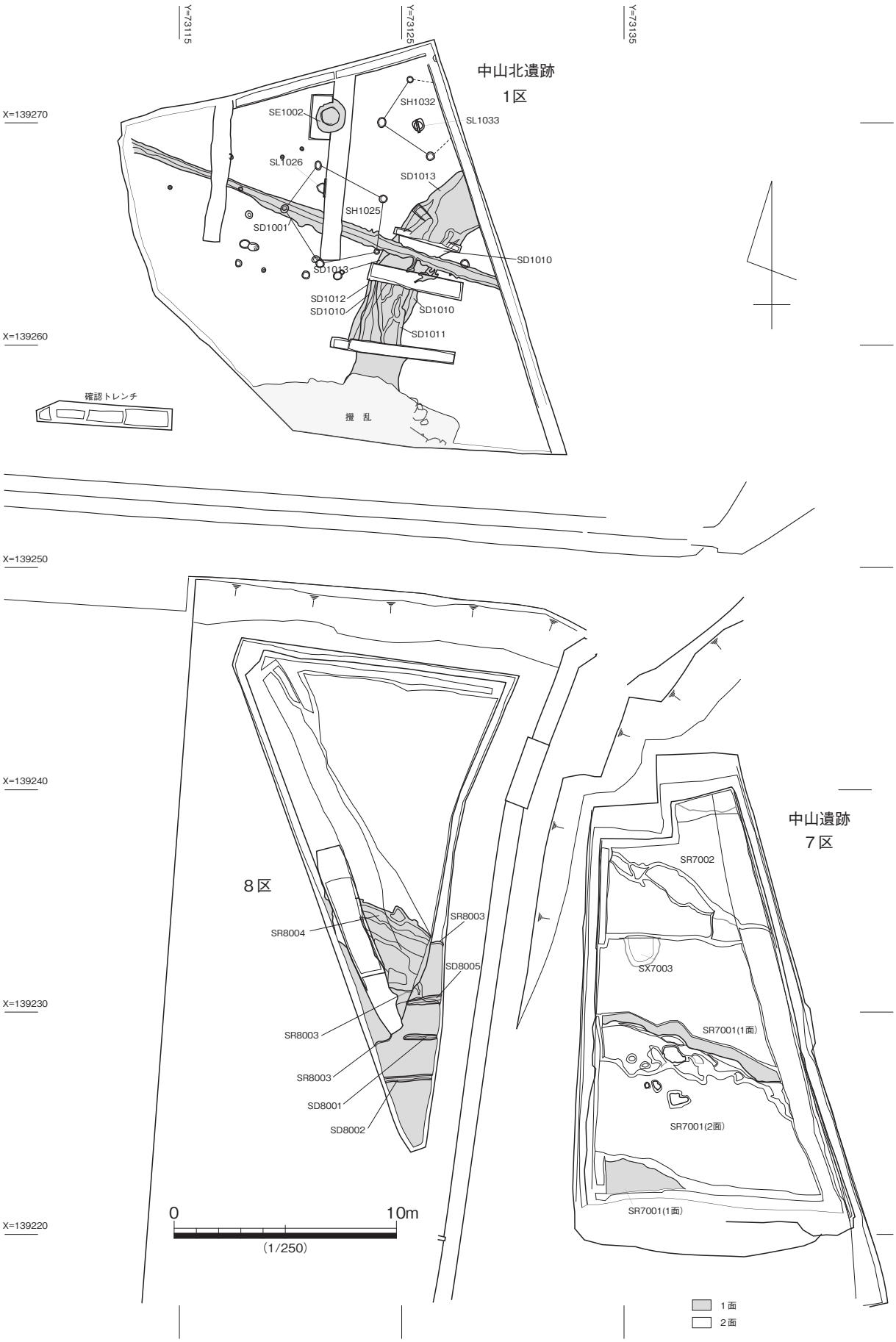
遺跡は番屋川の支流である北川が開析した谷の低地部に位置する。遺跡の周辺には南海道の可能性がある道路側溝が検出された坪井遺跡や、中世の集落跡である三殿北遺跡、江戸時代の砂糖生産に使った竈が検出された三殿出口遺跡がある。

本年度の調査区は、令和元年度、令和２年度の調査地の北側に位置し、東側調査区（７区）と西側調査区（８区）の２か所である。過年度の調査では、中世の生産遺跡と鎌倉～江戸時代の旧河道が検出されている。本年度の調査では、中世～近世の旧河道が検出された。

７区、８区とも耕土層等の直下で第１遺構面を検出した。耕土層は近世段階に耕地化されたと考えられ、耕土層の間に北川の氾濫に伴うとみられる砂層の堆積が認められる。

第１面で検出した遺構には、北川の旧流路と考えられるSR7001、東西溝のSR8003、SR8004、鋤溝とみられるSD8001、SD8002、SD8005を検出

写真１　中山・中山北遺跡全景（北から）



第３図　遺構配置図（1/250）

写真２　中山遺跡７区全景（西から）

写真３　中山北遺跡 SE1002 完掘（西から）

した。

SR7001 は旧耕土層の直下で検出した遺構である。器種不明の土師質土器片や施釉陶器片が出土している。

SR8003 は残存深 0.14 m前後と浅く、底面は概ね平坦である。SR8003 の下からは鋤溝の可能性のある SD8001、SD8002、SD8005 を検出した。そのため、SR8003 は洪水砂層の可能性が高い。

第２面では SR7002、SX7003 を検出した。

SR7002 は７区の北部で検出した。遺物は 14 世紀前葉の足釜、格子叩き目が残る土器片などが出土しているが多くは磨滅や細片のため年代の判別が難しい。

SR7001 と SR7002 の間には砂質土層があり、その上面で検出したのが SX7003 である。遺構の残存深は 0.3m 前後で、14 世紀の擂鉢、足釜、鍋が出土している。

８区では、７区で検出された SR7001、SR7002 や、それ以外の流路が重複し流路単位での検出が困難であった。遺物は少量であるが出土しており、SR7001 や SR7002 とほぼ同じ時期のものである。

中山遺跡から道を隔てて北側にあるのが中山北遺跡である。中山北遺跡は中山遺跡より標高が約２m 高いため、中山北遺跡では旧河道は検出されていない。調査は１区と遺構の広がりを確認するために南西隅に設定した確認トレンチで行っている。

第１面は旧耕土層の直下で検出した。遺構としては、北西から南東に流れる SD1001、北東から南西に流れる SD1010 ～ SD1013、近世の井戸とみられる SE1002 がある。

SD1001 から砂目積痕が残る陶器の底部、磁器片が出土していることから近世の遺構である。その下から検出した SD1010 ～ SD1012 は SD1001 より南では流路ごとに検出できたが、北では重複し細分することが困難であった。そのため、SD1001 より北にある SD1013 は SD1010 ～ SD1012 の流路を含んだものになっている。

SE1002 は井戸枠に結桶を使用している。香川県において井戸枠に結桶が使用されるようになるのは 14 世紀以降である。湧水と井戸周囲の壁の崩落のため井戸の構造の全形は確認できなかったが少なくとも 1.4 m前後の板材を使用し井戸枠としていたことが明らかになった。井戸内部、掘方より備前焼や陶磁器片が出土しているため近世段階まで使用されていたと考えられる。

第２面では縄文時代晩期の竪穴建物跡が２棟検出されている。

SH1025 は５つの主柱穴で構成される。主柱穴の残存深はいずれも 0.1 m未満であり、直径は 0.2 ～ 0.3 mである。柱間は短いところで２m、長いところで 3m であるが他は概ね 2.5m の間隔で柱穴が並んでいる。炉は建物内部の北側につくられている。炉の中より土器が一点出土しているが体部片のため年代決定が困難である。

SH1032 は調査区北東で検出した竪穴建物跡である。北東部は調査区外へ延びると考えられ、主柱穴が３穴しか検出できていないが、SH1025 のように５穴の主柱穴で構成されていた可能性がある。主柱穴の残存深は 0.1 m未満、直径 0.25 ～ 0.4 m、柱間の距離も 2.0 ～ 2.5 mと SH1025 と似通っている。炉は建物内部の南西寄りに作られる。

SH1025、SH1032 とも建物跡から年代を決定づける遺物は出土しなかったが、建物跡を検出した層より縄文時代後期から晩期の土器片が複数出土していることから、建物跡も同様の年代が与えられると考える。

確認トレンチは、縄文時代の遺物を含む包含層の広がりを確認する目的で設定した。層序としては、１旧耕土層等、２明褐色混細砂粘質土、３灰黄褐色混細砂粘質土、４灰白色中粒砂、５灰白色粘土、６黄褐色中粒砂、７オリーブ褐色粘土である。このうち５層の灰白色粘土が第２遺構面を検出した層と同層であるが、遺構や遺物は検出しなかった。

今回の調査により、中山遺跡では鎌倉～室町時代に河川跡が埋没し始め、室町時代末～江戸時代にかけて埋没していったことが明らかになった。一方高台の上にある中山北遺跡では建物跡は検出されなかったが、井戸や溝が作られており周辺で暮らす人々の生活に欠かせない場所であったことが推察できる。

また中山北遺跡で検出された２棟の建物跡は縄文時代晩期のものとみられ、県内で確認されたのは初めてである。今回の調査で検出された建物跡の評価するのは現段階では難しいため、来年度以降の中山北遺跡で資料が増えることを期待したい。

樋ノ口（ひのくち）遺跡

第４図　遺跡位置図（1/25,000）

遺跡は三豊平野北部の財田川左岸に位置する。遺跡の周辺には弥生時代前期～古墳時代初頭を中心とする集落遺跡の一ノ谷遺跡群、一ノ谷遺跡群と同時期の久染遺跡、流水文様を持つ銅鐸が出土した古川遺跡がある。

樋ノ口遺跡は昭和62年度にも調査を行っており、耕作土直下より弥生時代前期の木棺の痕跡が残る土壙墓33基と集石を伴う土坑、柱穴などが多数検出された。また弥生時代前期の遺構が確認された下層では、縄文時代後期の土器が多数出土した溝状遺構を検出している。

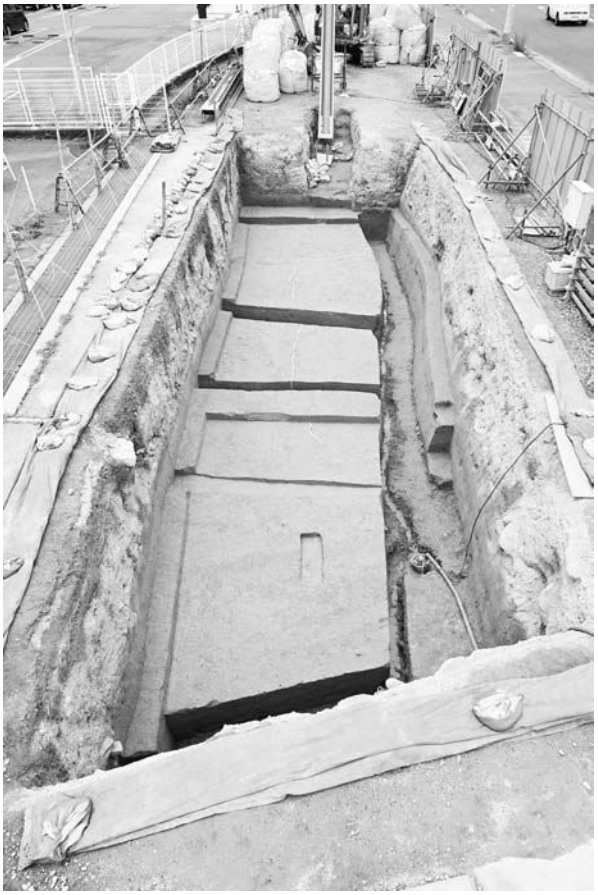
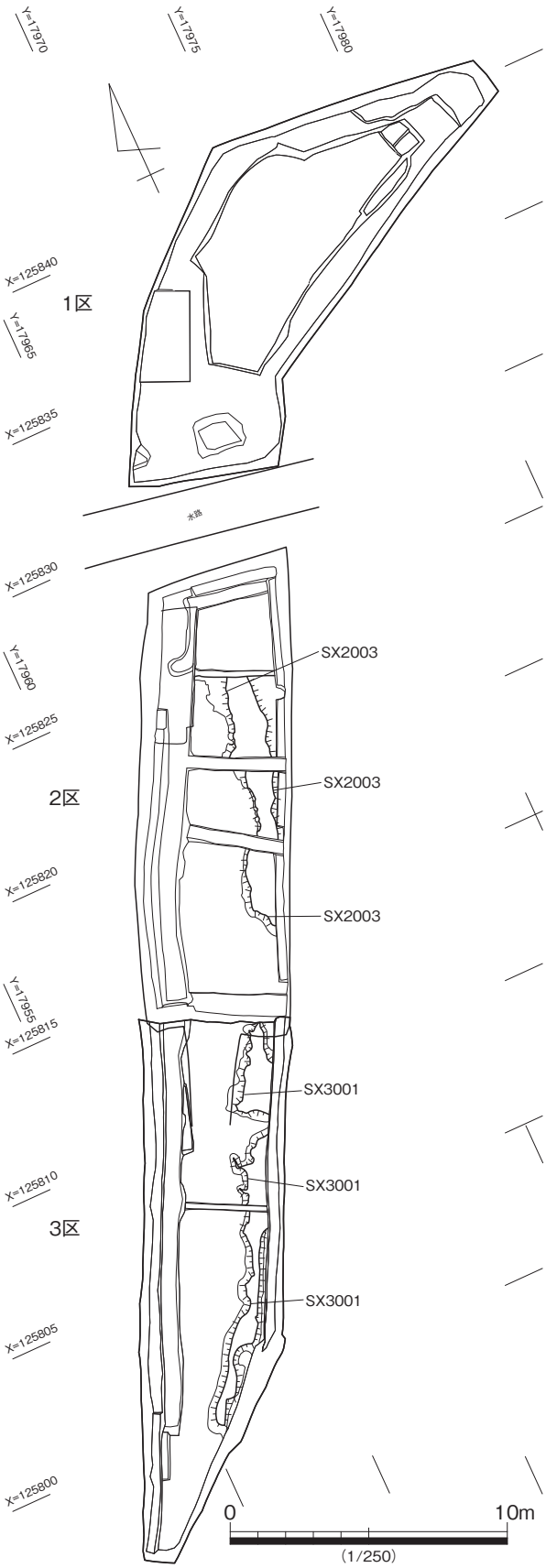


写真４　２区全景（北から）



第５図　畦畔配置図（1/250）

写真５　３区東壁（北から）

今回の調査地は昭和62年の調査地からやや北西に100ｍ離れたところである。基本的な層序は、１ 近代の耕作土、２ 複数時期の田畑層、３ 洪水砂層、４ ２より前の田畑層、５ 氾濫原の順になる。

本年度の調査では中世の水田跡を検出した。

近代の耕作土下を第１面として調査した。柱穴や鋤溝などの遺構は確認されなかったが、土師質土器の鍋、足釜、備前焼、瓦などがあり、第１面を中世から近世の田畑層としておく。

第１面の直下では洪水砂が堆積している。財田川が氾濫した際に運ばれたと考えられ、洪水砂層の下には第１面以前に使用されていた田畑層を検出した。層の上面では水田の畦畔（SX2003、SX3001）を検出した。

水田の畦畔を検出した層の下は、財田川の古い流れが見られる氾濫原になっている。氾濫原の上層から土器が一点出土しているが磨滅が激しく年代の決定が困難である。

今回の調査により、調査地点が低地部分であり財田川の氾濫原であること、そこから埋没が進み中世には洪水の影響を受けながら水田などの耕地として利用されていたことが確認された。

沖（おき）遺跡

第６図　遺跡位置図（1/25,000）

遺跡は丸亀平野東部、大東川の南岸に位置する。周辺には、古墳時代後期の竪穴建物跡や古代の掘立柱建物跡、水田跡を検出した名遺跡、弥生時代～鎌倉時代にかけての集落跡が検出された沖南遺跡が所在する。

本年度の調査区は、平成30年、令和元年の調査地の南側に位置し、東側調査区（４区）と西側調査区（５区）の２か所である。過年度の調査では、弥生時代後期以前の溝状遺構、古墳時代の溝状遺構、鎌倉時代に掘削されたと考えられている条里地割に並行する溝状遺構や掘立柱建物跡などが検出されている。

本年度の調査では、中世とみられる柱列（SA5001）と古墳時代の溝跡（SD4018）を検出した。

４区の北部は旧飯山南コミュニティセンターの建物基礎と基礎工事に伴う攪乱のため遺構面が検出されなかった。また４区で試掘調査の際に遺構面としていた面を検出したが、ベースとなる土と上面の土がまだらに混ざり合い遺構の検出が困難であった。一方水路を挟んだ５区では中世のものとみられる柱列を検出している。ピットは全て直径が0.1ｍ未満、残存深0.2ｍ未満である。ピットから１点土師質土器口縁部の細片が出土しているが細片のため年代決定が困難である。遺構の検

写真６　５区全景（南から）

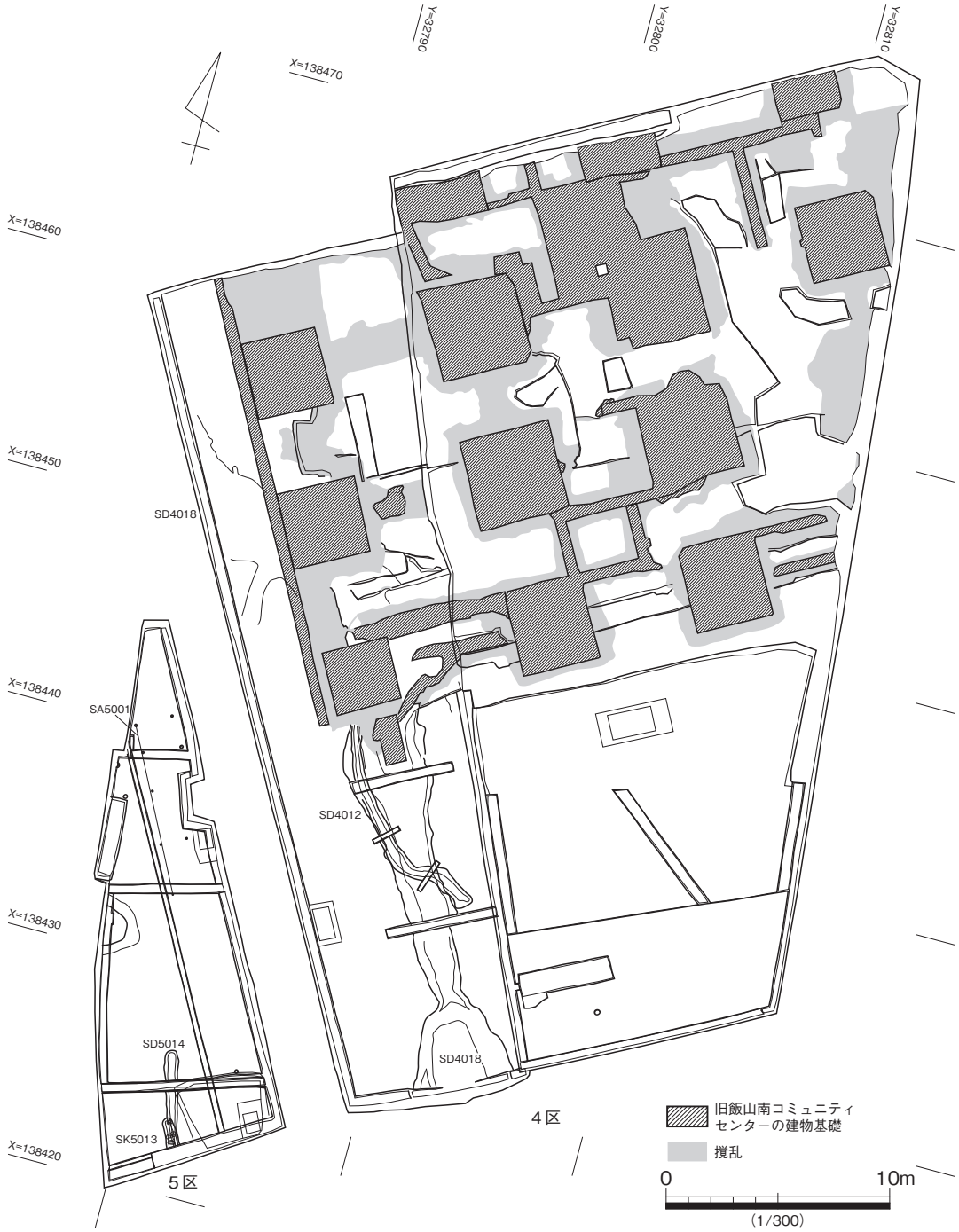
写真７　４区 SD4018 断面（北から）

出面から中世を想定しているが、中世以降の可能性も考えられる。

第２面ではSD4012、SD4018を検出した。

SD4012は調査区の南西に位置しSD4018の上面で検出した。黄灰色混細砂粘質土の単層で残存深は0.16ｍである。遺物は出土しているものの磨滅が著ししいことと細片のため年代の決定は困難である。SD4018は大型灌漑水路と考えられる。SD4018の北端のトレンチでは少なくとも２条の溝状遺構を検出しているが、SD4018の中央に設定したトレンチでは１条のみの検出のためトレンチの間で流路が重なったと想定する。残存深は約0.5ｍで遺物は最下層付近でサヌカイトの剥片が出たのみである。今回検出した溝状遺構は北方を攪乱で失っており延長は確認できないものの、溝の延長と想定できる溝は４区の西壁で検出している。この溝を複数の流路で構成されているSD4018の流路の一つと考えているが推測の域を出ない。

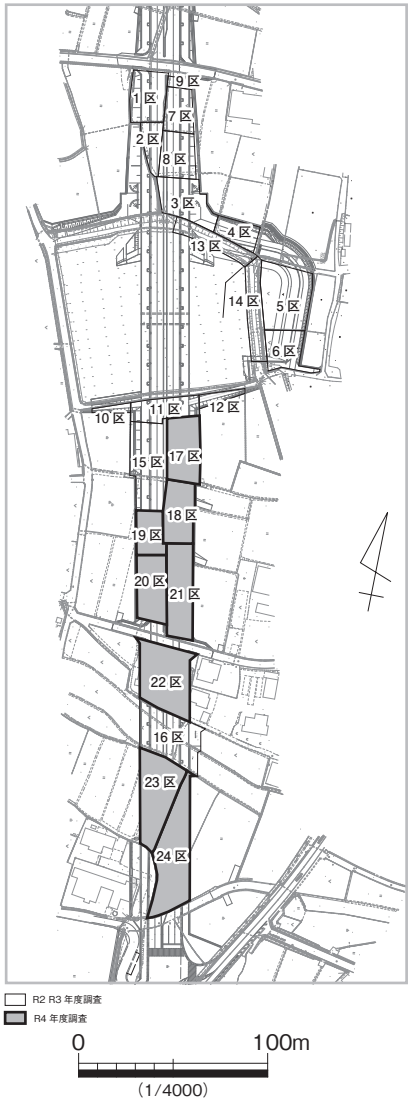
SD4018の溝断面を見ると滞水していた期間（水路が使用されていなかった期間）と水路が利用されていた期間を繰り返している。このことから一時SD4018と異なる水路を使用していた、もしくは周辺で灌漑を用いた耕作の一時中断が考えられるがいずれも確証となる遺構が検出されていない。



第７図　遺構配置図（1/300）

岡遠田遺跡（おかとおだ）

第８図　遺跡位置図（1/25,000）



第９図　調査区配置図（1/4,000）

岡遠田遺跡は丸亀市飯山町上法軍寺に所在する弥生時代から中世にかけての集落遺跡で、令和２年度より国道 438 号の改築に伴って発掘調査を実施した。本遺跡は岡田台地の中で舌状に張り出した部分の先端部に位置しており、周辺には飛鳥～奈良時代の大規模な掘立柱建物が見つかった遠田遺跡や、同時代の掘立柱建物が数棟見つかった東原遺跡がある。

調査区は調査工程や進入路の都合などから 24 区にわけ、今年度は台地上に設定した 17 ～ 22 区と台地を東西にはしる谷地形である低地に設定した 23・24 区の発掘調査を実施した。結果、台地上では弥生時代後期の竪穴建物７棟と廃棄土坑１基、古代末～中世初頭の掘立柱建物２棟、中世墓１基を検出した。一方、谷地形では飛鳥時代の溝を複数検出した。

弥生時代

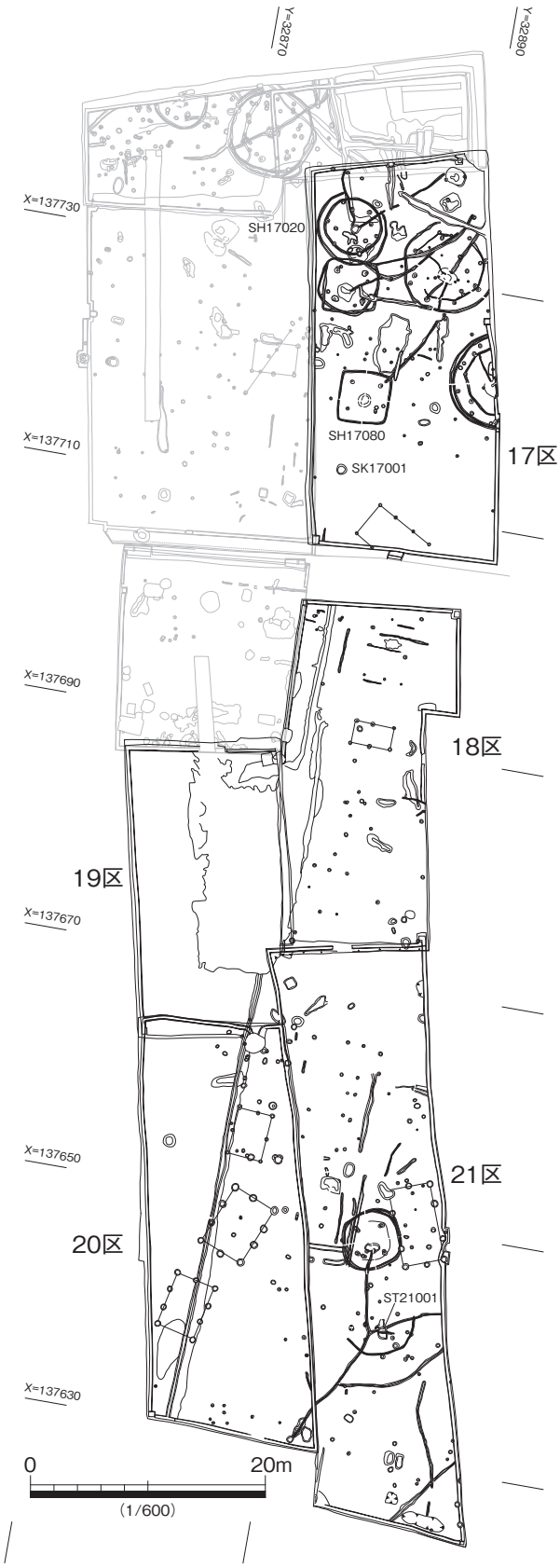
竪穴建物は 17 区で５棟、21 区で２棟の計７棟を検出した。いずれも、中央土坑や壁溝から建物の外側に伸びる屋外排水溝を伴った竪穴建物で、検出状況から低地に向けて屋外排水溝を伸ばすことが分かった。17 区では円形３棟・方形２棟の平面形が異なる竪穴建物を検出したが、建物同士や屋外排水溝の切り合い関係から円形の竪穴建物から方形の竪穴建物へと移行したことが明らかになった。検出した竪穴建物の中には焼失したものや、播磨地域で広域に認められる「10 型中央土坑」をもつといった注目すべき建物も見られる。なお、年代については円形の竪穴建物が、昨年度の発掘調査で検出した竪穴建物（11 区 SH11001）と特徴が類似したので弥生時代後期前半と推定した。廃棄土坑は 17 区で１基検出した。複数の弥生土器が廃棄されており、調査中に接合しただけでも、長頸壺・大鉢・高杯がほぼ完形に復元できた。年代は出土した弥生土器から弥生時代後期前半としたが、昨年度の発掘調査で検出した廃棄土坑（15 区 SK40 など）から出土した弥生土器と比較するとやや新相を示す。

飛鳥時代

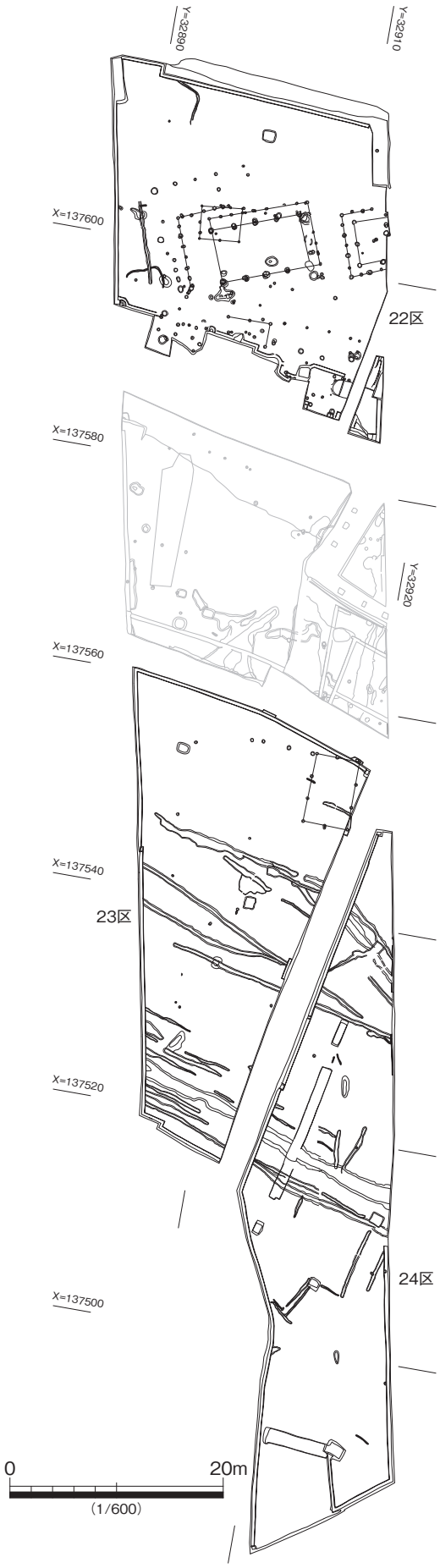
谷地形である 23 区から溝跡を検出した。溝跡は複数条検出したもの、埋土の様相から同時期と推定した。なお、出土した溝はそれぞれ異なるものの須恵器有蓋高杯・杯身、陶製の土馬が出土した。年代は出土した須恵器から飛鳥時代中頃と推定した。

古代末～中世初頭

22 区から２棟の掘立柱建物を検出した。特に中央部の掘立柱建物は面積が 42.5㎡と広大で、東側と北側に柱列を伴っている。なお、この柱列は主柱との距離が近く、柱間の位置にもあるため庇ではなく縁と考えられる。年代は遺物が出土していないものの、建物の構成から古代末～中世と推定した。



第 10 図　遺構配置図（北部）（1/600）



第 11 図　遺構配置図（南部）（1/600）

写真８　17 区遠景（西南から）

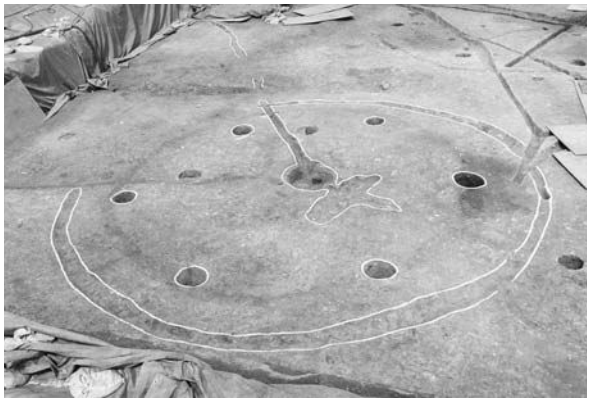


写真９　SH17020 完掘状況（西から）

写真 10　SH17080 完掘状況（南から）

写真 11　SK17001 土器出土状況（南から）

写真 12　21 区遠景（南から）

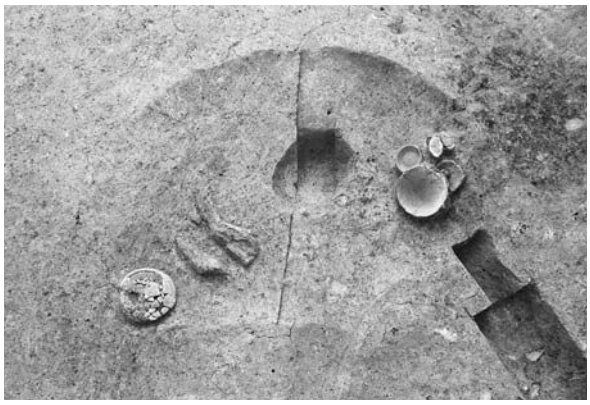


写真 13　ST21001 土器出土状況（南から）

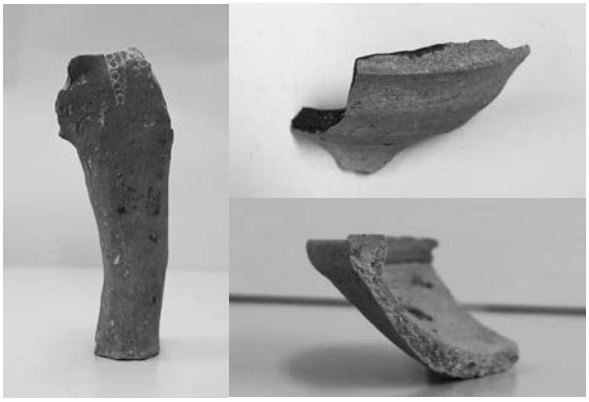


写真 14　23 区出土の須恵器と土馬

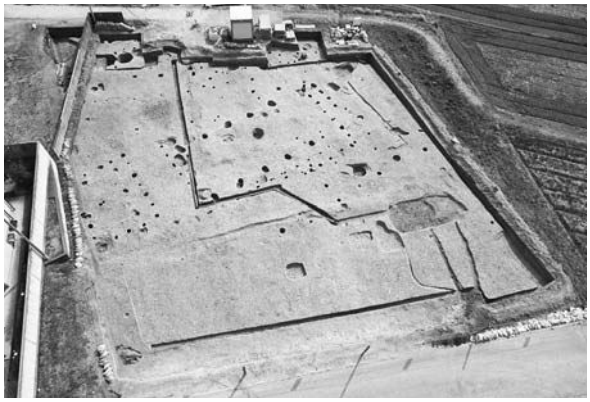


写真 15　２２区遠景（北から）

鎌倉時代

21 区で検出した弥生時代後期の竪穴建物の中央土坑と切り合う位置から中世墓を１基検出した。年代は出土した西村型須恵器椀から 12 世紀後半と推定した。

まとめ

弥生時代

・岡田台地上に弥生時代後期～古墳時代後期まで継続する集落跡を見つけることができた。
・屋外排水溝を伴う竪穴建物は、中国地方の山間部や近畿地方でも確認できる。このことから、当遺跡は他地域からの移住してきた集団または、他地域との交流を盛んに行った集団が営んだ可能性が高い。
・17 区や 21 区で調査区の東側に広がる竪穴建物や、東側から伸びてくる屋外排水溝を確認したことから、集落跡の範囲が遺跡の東側に広がっていると考えられる。
・弥生時代後期の廃棄土坑から弥生土器が複数点出土したため、一括性の高い資料を提供することができた。
・焼失家屋を２棟検出したが、いずれも屋根材に粘土を用いることを確認した。

飛鳥時代

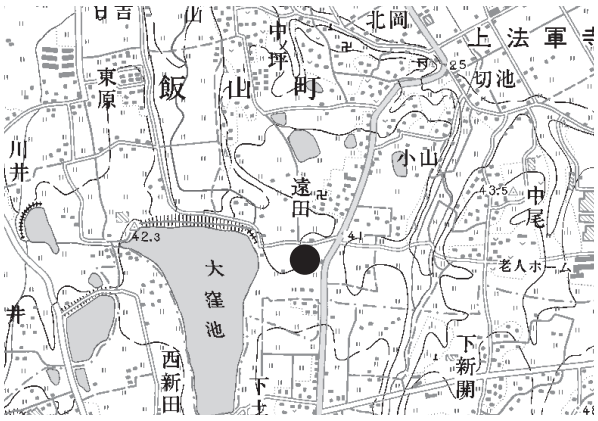
・23 区を横断して西に流れる溝跡から飛鳥～奈良時代の遺物が出土したため、西に隣接する遠田遺跡との関連が想定できる。なお、県内でも出土例が少ない陶製の土馬を検出したため、水辺の祭祀を行っていた可能性がある。

古代末～中世

・22 区から掘立柱建物を２棟検出したが、土地を大きく削る開発を行って敷地を整えた上で、大規模な上に縁をもつ立派な構造をしているため、比較的有力な集団が営んだ集落跡だった可能性がある。

岡遠田遺跡の発掘調査は今年度の調査をもって終了となるが、弥生時代～中世にかけての様々な成果を得ることができた。なお、当遺跡の南側に隣接する岡遠田南遺跡の発掘調査は来年度も継続するため、注目したい。

岡遠田南（おかとおだみなみ）遺跡



第 12 図　遺跡位置図（1/25,000）

遺跡は岡田台地上にあり、岡遠田遺跡とは谷を挟んで向かい合うように所在している。遺跡の北方には今年度まで調査を行い弥生時代～中世までの集落跡が検出された岡遠田遺跡、北西方向には飛鳥時代～奈良時代の遺跡である遠田遺跡、東原遺跡がある。さらに北方まで目を向けると今年度にも発掘調査を行った沖遺跡がある。

調査区は２区に分けて実施し、飛鳥時代の掘立柱建物跡 (SB1003、SB1013、SB2005)、土坑 (SK1041)、性格不明土坑 (SX2003)、中世の掘立柱建物跡 (SB1051、SB2020)、中世～近世とみられる溝跡 (SD1001、SD1002) を検出した。

SB1003 と SB1013 は南北２間、東西３間であるところは共通しているが、柱間の間隔が SB1003 は 1.2 ～ 1.4 m であるのに対し SB1013 は 1.6 ～ 1.8 m と SB1003 の方が少し狭い。一方 SB2005 は調査区外へ延びる可能性があるものの、南北２間、東西２間分の柱穴を検出している。柱間の間隔は３棟の建物の中で最も広い 1.8 ～ 2.0 m を測る。主軸方向や建物構造が異なる部分はあるものの、規模や埋土の類似性を考えると３棟は近接した時期に営まれたと考える。なお建物跡からの遺物はどれも細片であり年代決定に耐えうるものではない。

３棟の掘立柱建物跡と同様な埋土をもつ SK1041 では７世紀末～８世紀初頭の須恵器杯蓋が出土している。

SX2003 は遺構の北東隅で検出した遺構である。明確な遺構の掘り込みが確認できず、南から北へ地面が下がっていくため地形の窪みの可能性もある。埋土は単層で灰色を呈する。この遺構より、完形に近い須恵器の杯、土師質土器片、刀子、被熱痕のある鞴の羽口が出土している。須恵器の杯は口縁部が欠損しているため身か蓋か判断しにくいが、SK1041 と似通った時期と考えられる。

以上のことより３棟の掘立柱建物跡の時期を飛鳥時代末～奈良時代初頭に位置付けられると考える。

SD1001 は遺構南西部で検出した。須恵器や土師質土器、磁器とともに完形に近い把手付鍋が出土している。出土した把手付鍋は外面に炭化物が付着するなど近接した場所で破棄された可能性が考えられる。一方遺構北部で検出した SD1002 からは、須恵器、土師質土器、磁器などが出土している。出土した土器はいずれも細片でローリングを受けており、遠隔地から流下堆積した可能性が考えられる。

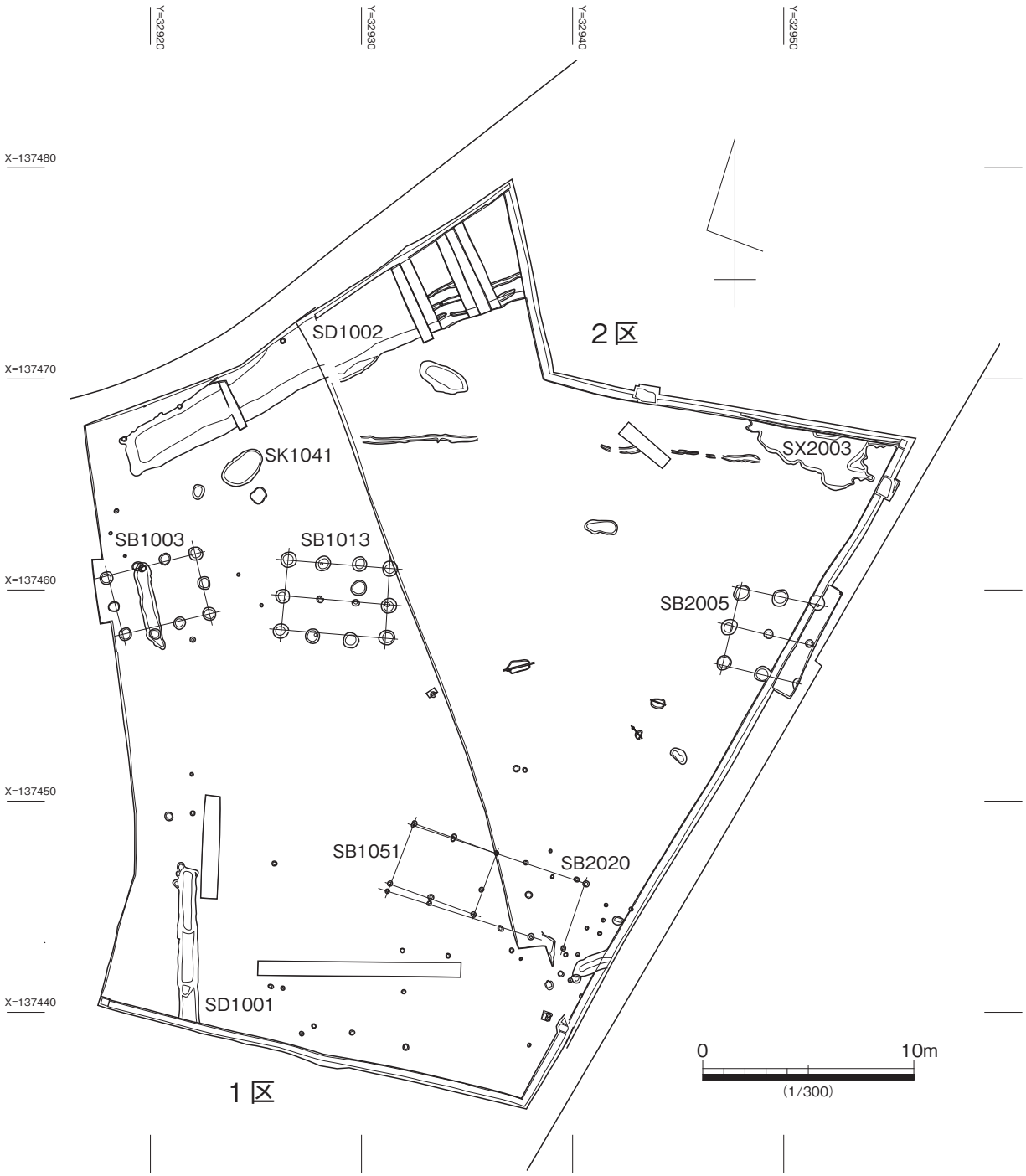
遺構南部の区境で検出したのが SB1051 と

SB2020である。２棟とも柱筋が酷似しており、構成する柱穴の前後関係からSB1051が先行することがわかる。SB2020は、西半部をSB1051と重複する位置で、東半部を拡張させたことが窺える。

SB1051は南北１間、東西２間の掘立柱建物跡である。SB2020は南北１間、東西４間である。ともに柱穴から遺物は出土しているが、細片のため年代の決定は困難である。遺構を検出した包含層より中世の遺物が出土していることから、中世の建物跡と考えられる。

今回の調査では、同時期に営まれたと考えられる飛鳥時代の掘立柱建物跡を３棟検出した。今年

写真16　１区全景（西から）



第13図　遺構平面図（1/300）

度調査した岡遠田遺跡では飛鳥時代の遺物として陶製の土馬が出土している。このことから岡遠田南遺跡には土馬を用いた水辺の祭祀にかかわる集落があったことが推測される。中世になると建物跡や溝跡が検出されるが、これも同時期に周辺の遺跡で大きな建物跡が検出されているため、そこに住む人々との関連が高いと考える。来年度以降には国道 438 号を越えた部分の調査が行われる。そこで検出される遺構によって今年度調査した部分の機能的位置づけも変更される余地が考えられるため、今後の調査に期待したい。

写真 17　２区全景（西から）

写真 18　２区全景（北から）

２　普及・啓発事業

（1）展示

①香川県埋蔵文化財センターでの展示

タイトル	場所	会期
遺跡・遺物からみた香川の歴史	第１展示室	4 月 1 日～ 3 月 31 日
香川県埋蔵文化財センター調査速報展－令和３年度の調査－	第１展示室	6 月 10 日～ 10 月 7 日
讃岐国分寺跡と府中・山内瓦窯跡	第１展示室	10 月 17 日～ 1 月 27 日
古代の讃岐	第２展示室	4 月 8 日 ～3 月 31日

第９表　展示一覧

一般			団体										合計
大人	子ども	計	団体数					構成員数					
			一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	
871	41	912	9	1	6	0	16	213	5	153	0	371	1,283

単位　：人

第 10 表　入館者数一覧

②香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

タイトル	場所	会期	観覧者数（人）
三豊市の寺院跡と瓦	宗吉かわらの里展示館	7 月 15 日～ 8 月 21 日	527
讃岐国府跡と開法寺跡	坂出市役所１階ロビー	10 月 3 日～ 10 月 28 日	600
合　計			1,127

第 11 表　センター外展示一覧

（2）発掘調査現地説明会

番号	内　容	実施日	対象	参加者数（人）
1	讃岐国府跡発掘調査現地説明会	1 月 7 日	一般	60
2	岡遠田遺跡・岡遠田南遺跡現地説明会	1 月 29 日	一般	51
	合　計			111

第 12 表　現地説明会一覧

（3）講師の派遣

①出前授業

	依頼者	実施日	内容
1	高松市立檀紙小学校	6 月 3 日	檀紙小学校校区の遺跡

第 13 表　出前授業一覧

②体験講座など

	依頼者	実施日	内容
1	古代アートマルシェ実行委員会	7 月 31日	勾玉作り
2	鳥取県立むきばんだ史跡公園	10 月 16 日	分銅形土製品ペンダント作り

第 14 表　体験学習講座一覧

③その他

	依頼者	実施日	内容
1	高松大学・高松短期大学地域連携センター	5 月 16 日	講演
2	綾歌神社総代会	7 月 17 日	講演
3	高松市老人クラブ連合会	9 月 15 日	講演
4	府中壮成大学	11 月 10 日	講演
5	丸亀郷土史会	12 月 10 日	講演
6	蓬莱歴史研究会	3 月 7 日	講演

第 15 表　講演等への講師派遣一覧

（4）体験講座

7月22日・25日、11月27日、1月29日に体験講座を行った。

実施日	タイトル	内容	人数（人）
7月22日・25日	ふるさと学習　小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と印鑑」「讃岐国府跡と瓦」	実物の考古資料に触れながらの講義および瓦ペンダントづくり、印鑑づくり	15
11月27日	ふるさと学習　小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と瓦」	実物の考古資料にふれながらの講義および瓦の皿作り	8
1月29日	発掘体験講座　「ふれてみよう！岡遠田南遺跡」	発掘体験と土器洗い体験	6
合　計			29

第16表　体験講座実施事業一覧

（5）考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を4回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数（人）
1	8月20日	弥生文化と農耕のはじまり	信里芳紀	18
2	10月8日	十瓶山窯跡群における窯業生産の展開	谷本峻也	17
3	12月10日	高松藩松平家と子墓造営	溝上千穂	15
4	2月18日	香川県内出土骨角製品の生産と流通	益崎卓己	12
合　計				62

第17表　考古学講座一覧

（6）人材育成講座

高校生を対象とした文化財保護を担う人材育成講座を行った。

実施日	講座名	場所	講師	人数（人）
8月17日	香川県立丸亀高等学校・香川県埋蔵文化財センター連携事業　高校生を対象とした文化財保護を担う人材育成講座	埋蔵文化財センター、国指定史跡快天山古墳	徳島文理大学教授 大久保徹也 当センター 信里芳紀	6

第18表　人材育成講座一覧

（7）まいぶんボランティア活動

まいぶんボランティアは、普及事業の補助などを行った。16名が登録し、24回、延べ106名が活動に参加した。

（8）新聞記事掲載

四国新聞に「ディープKAGAWA2022埋蔵文化財センター編」として、計24回の連載を行った。埋蔵文化財センターテーマ展について紹介する「調査速報展から」（5回）、「讃岐国分寺跡と府中・山内瓦窯跡」（2回）、「テーマ展讃岐国府周辺の古代寺院から」（2回）、令和3年度から実施している地域総合調査研究事業について紹介する「地域総合調査研究事業から」（2回）、専門職員が自身の発掘調査の経験や調査研究などについて紹介する「発掘現場で考える」（5回）、讃岐国府跡の調査成果について紹介する「讃岐国府跡」（2回）、近世城郭について紹介する「香川県の近世城郭」（6回）で構成した。

（9）資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館・その他公共団体	出版社・新聞社・その他民間企業	個人・他	合計
遺物	4	0	11	0	10	25
写真・パネル	0	0	4	4	3	11
レプリカ・模型	0	0	0	0	0	0
合計	4	0	15	4	13	36

数字は件数

第19表　資料貸出・利用一覧

（10）職場体験学習・インターンシップ

	学校名	期間	内容	人数（人）
1	坂出市立白峰中学校	11月8日～11月10日	職場体験	1
合　計				1

第20表　職場体験学習一覧

（11）刊行物

『香川県埋蔵文化財センター年報　令和3年度香川県埋蔵文化財センター研究紀要X』
『いにしえの讃岐』109号・110号・111号・112号

（12）ホームページ

ホームページ（https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun）の更新を随時行った。

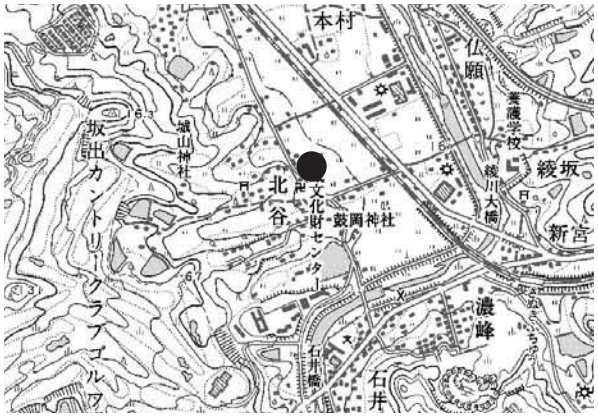
トップページビュー数　　13,010

３　讃岐国府跡調査事業

「香川県文化芸術文化振興計画」に基づき平成21年度から讃岐国府跡探索事業を、平成30年度からは讃岐国府探求事業を、令和３年度から新たに讃岐国府跡調査事業をそれぞれ実施している。主に讃岐国府跡の遺構内容の確認を目的とした発掘調査を行った。また、その成果を現地説明会や成果報告会で公開した。

讃岐国府跡を活用した情報発信事業として、第４回讃岐国府まつり（主催：讃岐国府まつり実行委員会）の関連企画として、小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と瓦」開催した。

（1）発掘調査



第14図　遺跡位置図（1/25,000）

調査場所	坂出市府中町
調査主体	香川県教育委員会
調査担当	香川県埋蔵文化財センター
調査期間	令和４年11月１日～ 令和５年３月31日
調査面積	76㎡
出土遺物	コンテナ数　10箱

１　調査概要

今年度は、史跡讃岐国府跡指定地（以下「指定地」と略）の北北西約200ｍの地点（第14図）で調査を実施した。ここは、北と南を東西に延びる丘陵に挟まれた広く浅い谷筋の出口付近に位置し、昭和59年度に行われた９次調査地の南側に相当する。この９次調査とそれに先んじて昭和53年度に９次調査地北側で行われた３次調査において、幅約３～４ｍ、深さ約0.6ｍの大型の溝状遺構が見つかっており、その南北端の距離から総延長が約50ｍあると推定される。また、９次調査では溝状遺構の西側に柱穴列が確認され、柵の可能性が考えられる。これらの状況から溝の西側にはこの大溝と柵とで区画された１辺約50ｍ四方の施設が想定されている。今回は、この施設の広がりと内容の確認を目的として、２箇所にトレンチを掘削して実施した。

２　調査の成果

確認できた遺構は以下のとおりである。

１トレンチ　　柱穴　15基、溝状遺構　２条、井戸　２基、自然流路　１条

２トレンチ　　柱穴　７基、溝状遺構　３条

うち、国府関連遺構については時期毎に記載する。遺構の時期区分は『讃岐国府跡２』（2019香川県教育委員会編）のものに準ずる。

①　２期（７世紀後葉～８世紀初頭）

１トレンチ東半でやや大型の柱穴が６基確認できた（第15図・写真22）。うち、SP04・05・20の３つの柱穴（第15図・写真19）は、埋土・規模の状況から同時期のもので、位置関係からほぼ正方位（真北）の主軸を意識して建てられた掘立柱建物SB01を構成する。時期の分かる出土遺物が無く、帰属時期は不明だが、指定地内で確認されている７世紀末～８世紀初頭にかけて造営された前身官衙である大型建物群が正方位主軸を採ることから、この頃の遺構であると想定できる。

その他の柱穴SP02・03・06は互いに主軸が異なる。特にSP02・03は隣接する大溝SD01と平行して配置されるように見えるが、重複関係からSD01に先行する遺構であることが分かる。また、柱穴の平面形状が異なり、近接した位置に同軸の柱穴が確認できないことから、それぞれ別の建物を構成すると考えられる。SP06は主軸方向がSP02と類似するが規模の点で大きく異なり、大型掘立柱建物を構成する可能性がある。これらの柱穴の主軸方向は、指定地内で確認されている正方位を基調とする前身官衙建物群と主軸方向が類似しており、これらの建物群の年代が７世紀後葉のものであることから、SP02・03・06についてはSB01に先行する時期のものと想定できる。

②　３期４期（８世紀前葉～10世紀）

１トレンチの中央付近で大型の溝状遺構SD01を確認した。幅約３ｍ、深さ約0.6ｍを測り、周辺の条里地割の方向と合致する主軸を持つ（第15図・写真20）。３次及び９次調査で確認された大型溝状遺構の延長上に位置する。この溝の埋土には、流水の痕跡が乏しいことや人為的な埋め戻しの痕跡があることが過年度の調査で確認できており、その状況から、導水施設ではなく、空堀状のものであったと推定されている。今回の調査でも

写真19　SB01全景（北から）

同様の状況であったが、開削後、埋め立てや掘り直しが少なくとも４回行われ、溝が機能した時期を５期に細分できることが新たに分かった。遺物の出土量はあまり多くはないが、須恵器・土師器のほか、軒丸瓦の瓦当を含む瓦片や転用硯が出土している。過去の調査時のものも含めた出土遺物の時期から概ね８世紀前葉に開削され、10 世紀代には廃絶されたと考えられる。

③　５期（11 世紀中葉～ 13 世紀）

井戸１基と溝状遺構１条を確認した。

井戸 SE03 は１トレンチ西半で確認した（第 15 図・写真 21）。埋没状況から廃絶時に埋められたと考えられ、上部は周辺の削平と相まって著しく破損している。残存する下部には、方形に組み合わせたとみられる１段の横板と、その下端に曲物が１段確認できた。横板は横桟と考えられるが、これに留められた縦板は廃絶時に抜き取られたか腐食したかにより、残存しない。曲物は底板を抜かれ、水溜施設として埋められる。廃絶時の埋め戻し土から出土した遺物から、12 世紀後半には埋められたものと考えている。

溝状遺構 SD05 は２トレンチで確認した（第 15 図・写真 23）。出土遺物から 13 ～ 14 世紀のものと考えている。この頃は国府の機能が衰退して急速に耕地化が進む時期にあたり、この溝は、屋敷地が廃絶した後、耕地化に伴い開削されたものと考えられる。

また、時期不明の柱穴はその規模から当該期からのちの時代に属するものの可能性がある。

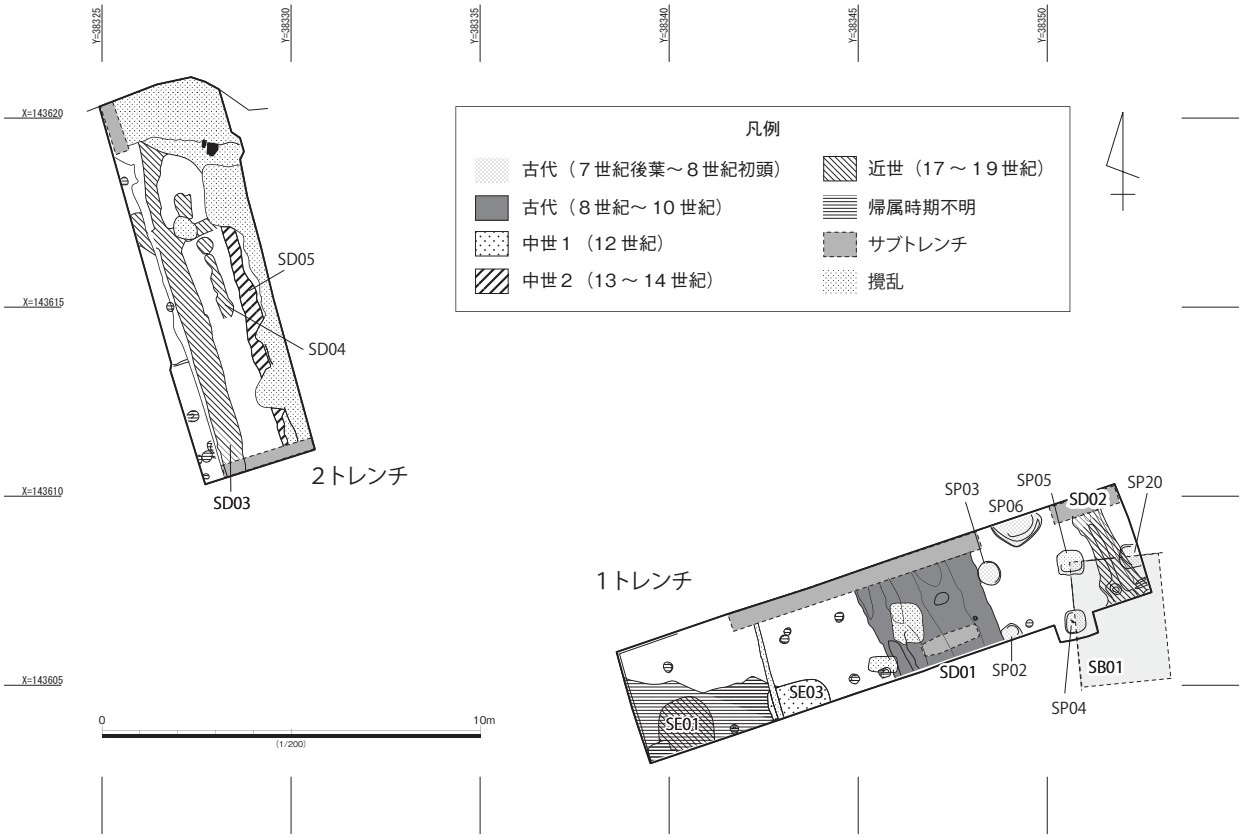
④　５期以降（17 ～ 19 世紀）

井戸１基と溝状遺構３条を確認した。

井戸 SE01 は１トレンチ南西隅付近で検出した。検出時の段下げで染付が出土したことと、規模から井戸の可能性が高く、下位の遺構が残存してい

写真 20　SD01 完掘全景（北から）

写真 21　SE03 半裁（北東から）



第 15 図　トレンチ１・２　遺構配置図（1/200）

る可能性が低いため、掘削は行っていない。

溝状遺構 SD02（写真 22）は１トレンチ東端で確認した南北方向の溝状遺構である。幅約 1.0 m、残存深度約 0.4 mを測る。検出範囲の南端付近で底部が若干深く掘り下げられるほか、そこから東へ枝状に派生する溝が確認できる。この溝の西と東で地山の標高が約 0.2 m異なり、東側が低い。周辺地形は西から東へ緩やかに傾斜しており、その地形に合わせて水田を形成するため、高い西側を削平し、平坦化を図ったと考えられる。SD02 は下げられた東側の水田の西端に灌漑水路として開削されたものと考えられる。その後、東西２筆に分かれた水田を１筆にするため、東側が埋め立てられたと考えられる。溝底部付近の出土遺物中に肥前系陶器皿が含まれることから、17 世紀代に埋没開始した遺構と考える。

SD03 は２トレンチ西端で確認した南北方向の溝状遺構である（写真 23）。幅約 0.6 m、残存深度約 0.2 mを測る。北側で同一の埋土を持つ東西方向の溝を確認しており、共時性のある遺構と判断している。SD02 同様、溝の東西で約 0.1 ～ 0.15 mの比高差があり、溝の西側が一段高い。１トレンチ同様、灌漑水路として開削されたものと考えられる。

SD04 は SD03 の東側に隣接して確認した溝状遺構である。幅約 0.5 m､残存深度約 0.2 mを測る。かなり削平が進み、残存状況は不良である。

３　調査のまとめ

今回の調査成果を従来の成果と合わせてまとめておく。

①で見た２期の遺構については、その主軸方位から指定地内で確認される前身官衙と同時期のものと判断した。同時期の遺構は、指定地の北側の範囲では東寄りの６次・16 次の調査地でもわずかに確認できており、今回の調査により、更に広い範囲に広がることが確認できた。しかし、今回調査分を含めても調査面積が狭小なため、これらの遺構からは個々の建物規模や全体の配置について、また、指定地内の前身官衙と同質か否かは不明であり、今後の課題として残る。

また、②で触れた SD01 は、３次調査で確認された大溝の北端から今回の調査地まで総延長約 80m を測る。当初、復元された周辺地形や大溝と柱穴列の位置関係から、この大溝の西側に１辺約 50 m程度の溝で区画された施設の存在が想定されていたが、より大きな区画施設となる可能性がある。西側約 80 m付近に条里地割の坪界が想定されること、その東側には 11 次調査で道路側溝とみられる２条の平行溝が確認されていること、北側・南側共に想定される低地帯に挟まれた微高地の南北幅が約 80 m程度であることなどから、その規模は、少なくとも１辺が最大約 80 mとなると予測される。さらに、同溝は出土遺物から８世紀前葉に開削、10 世紀代には廃絶されたと考えられ、数回の埋め立てと掘り直しが行われ、改修しながら同じ位置にあり続けることから、この区画に強いこだわりがあったことが窺える。掘り直しなどを行いつつ長期にわたり維持された、国衙を囲む区画施設である可能性が強まったと考える。

この期間の指定地内では、正方位を指向した建物や溝状遺構が条里地割に合致した方位を持つものに転換し、８世紀後葉～９世紀中葉には大型建物群が出現し、その後長期にわたり（～ 11 世紀前葉）複数回の建て替え・改修により維持されることが分かっており、今回の調査地でもその動向と連動する可能性が考えられる。SD01 が囲繞する区画施設は指定地周辺に展開する国衙施設の一角と考えられる。この東側でも６次調査や 37 次調査により大型建物が確認され、国衙（倉院か）が想定されている。これらと今回の区画施設の関

写真 22　１トレンチ全景
（東から　手前の溝が SD02）

写真 23　２トレンチ全景（南から）

係や、施設の規模や内部の状況は現時点では不明で、これも今後の課題として残る。

③で触れたSE03からは、讃岐国府の終盤に前代の大型建物群が消滅し、複数の屋敷地の集合体に変化し、留守所として機能していた時期の状況の一端が、続くSD05の存在から屋敷地廃絶後、耕地化していく状況を窺うことができ、指定地内の動向と連動していることも明らかになった。

指定地北側の範囲内は調査事例及び面積が少なく、実態把握が困難であることから、その範囲と内容の解明のため、今後も調査・検討を続けていく必要がある。

（2）地域との交流

例年、地域との交流企画として、「水のフェスティバルin府中湖」と「讃岐国府まつり」に参加している。「水のフェスティバルin府中湖」においては讃岐国府跡周辺のウォーキングや出前展示を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本フェスティバルは中止となった。第４回「讃岐国府まつり」（主催：讃岐国府まつり実行委員会）においては讃岐国府跡発掘現場公開、鼓岡文庫展を行った。

（3）情報発信

内容	回数
ホームページへの記事掲載	4
情報誌「いにしえの讃岐」への記事掲載	2
新聞への連載記事掲載	2
テレビ出演	3

第21表　情報発信一覧

（4）関連行事

行事名	会場	実施日	参加人数（人）	種別
讃岐国府跡と開法寺跡	坂出市役所１階ロビー	10月３日～10月28日	600	展示
ふるさと学習　小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と印鑑」	香川県埋蔵文化財センター	7月22日	10	講演・講座
ふるさと学習　小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と瓦」	香川県埋蔵文化財センター	7月25日	5	講演・講座
ふるさと学習　小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と瓦」	香川県埋蔵文化財センター	11月27日	8	講演・講座・第４回国府まつり関連企画
第４回讃岐国府まつり	讃岐国府跡周辺	11月27日	120	現場公開・展示
現地説明会	讃岐国府跡周辺	1月7日	60	現場公開
讃岐国府を語る令和４年度讃岐国府発掘調査報告会	坂出市ふれあい会館	3月21日	100	講演

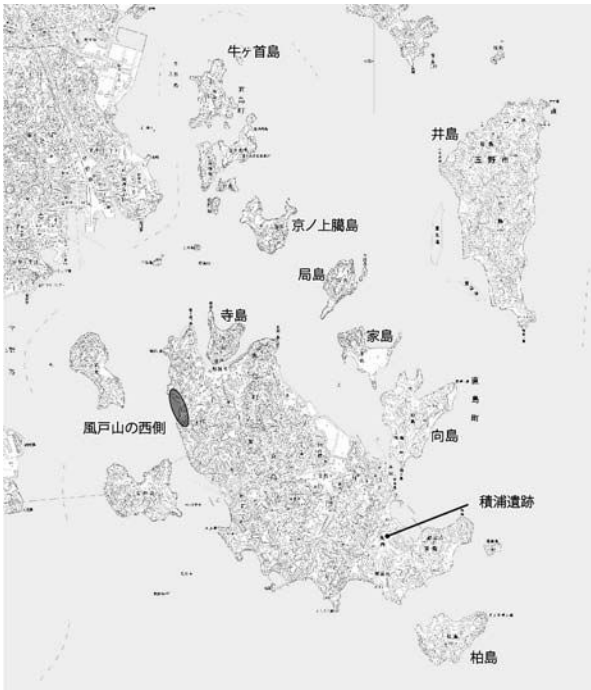
第22表　関連行事一覧

4　地域総合調査事業

調査場所　　香川郡直島町
調査主体　　直島町教育委員会・香川県教育委員会
調査担当　　直島町教育委員会
　　香川県埋蔵文化財センター
調査期間　　令和４年４月１日～
　　令和５年３月31日
　Ｒ４．４月～Ｒ５．３月　現地踏査
　Ｒ４．５月　　積浦遺跡発掘調査準備
　　６月　　積浦遺跡発掘調査
　Ｒ４．12月～Ｒ５．２月　遺物整理
調査面積　　12.7㎡（積浦遺跡発掘調査）
出土遺物　　コンテナ数　７箱

（1）事業趣旨

香川県内の一定範囲の地域を対象として、埋蔵文化財を悉皆的・総合的に把握し、その上で他の文化財や歴史的所見を加えることで、地域の成り立ちと変遷過程をとらえ直し、これらの作業を通して得られた知見と成果を地域に還元し共有することを目的としており、これらは、今後県内の各



第16図　事業対象地

自治体が作成する「文化財保存活用地域計画」のモデルケースとして提示するものである。
今年度は以下について実施した。
①　埋蔵文化財詳細分布調査
②　発掘調査
③　調査報告会及び資料展示会の実施

（２）分布調査の概要

直島本島並びに群島部において、周知の埋蔵文化財包蔵地の現状を把握すると共に、未知の埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するため、遺構・遺物の分布把握および資料の採取、地形状況の把握などを伴う現地踏査を行った。踏査期間は令和４年４月～令和５年３月で、対象地は井島･局島･家島･向島・柏島・寺島・直島本島である。

○　井島

島内周知の包蔵地の現状確認の他、新規遺跡の確認を行った。踏査成果により、周知の包蔵地については、「一本松古墳」･「なか鼻古墳群」の遺跡地図記載位置および「鞍掛鼻遺跡」の範囲修正、「鞍掛浜遺跡」･「戸尻鼻遺跡」の現況確認を行った。また、新規の包蔵地として、「大浦台遺跡（縄文時代早期）」､「石島山遺跡（旧石器～縄文時代）」、「石島山南遺跡（旧石器～縄文時代）」、「井島石切丁場遺跡（第１～８地点）（江戸時代）」を県遺跡台帳へ登載した。

写真 24　井島石切丁場遺跡（第２地点）

○　局島

周知の包蔵地「局島遺跡Ａ地点」の現況確認および島南部の丘陵上の遺跡の有無についての確認を行った。南部の丘陵上で少量の遺物散布を確認、過去にも資料の採取事例が認められることから、新規の包蔵地「局島南丘陵遺跡（旧石器～縄文時代）」として県遺跡台帳へ登載した。

○　家島

周知の埋蔵文化財包蔵地「はしもと畑遺跡」､「だるま石上古墳」、「家島遺跡」、「鶴松古墳群」、「鶴松鼻古墳」の状況確認を実施し、「はしもと畑遺跡」の範囲変更を行ったほか、新規の包蔵地として､「家島北西浜遺跡（中世）」､「家島港東遺跡（古墳時代～古代）」を県遺跡台帳へ登載した。

○　向島

周知の埋蔵文化財包蔵地「猫ヶ鼻古墳」「大福浦遺跡」｢アババ遺跡｣の状況確認を実施した。猫ヶ鼻古墳以外は遺物の微量散布が確認できた。なお、新規遺跡の発見はない。

○　柏島

周知の埋蔵文化財の包蔵地が無いことから、有無の確認を実施したが、北側の浜で微量の遺物散布を確認したが、遺跡としての登載までには至っていない。

○　寺島

周知の埋蔵文化財包蔵地は無いが、北西部の岬へ延びる稜線上などで遺物採取の記録があることから踏査を行い、遺物散布状況を確認した。島中央と南西部のピークを結ぶ鞍部上で石鏃１点を確認したのみである。

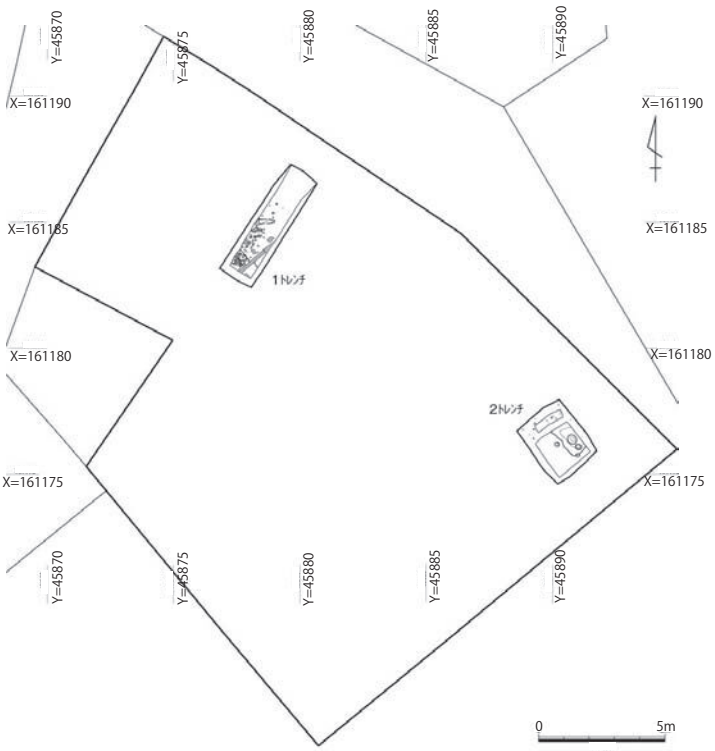
（３）発掘調査の概要

直島町積浦地区で発掘調査を実施した。周辺では、平成 14 年度に県道北風戸積浦線の建設に伴う発掘調査が実施されているほか、昭和 58 年度には直島町史編纂に伴う発掘調査が実施されている。前者では、中世の護岸状の遺構が確認され、現状の地形から、今年度調査地西側にある砂堆を分断する河川の河口付近に設置された港湾施設の可能性が指摘されている。現況は県道の下となる。また、後者では、今年度調査地の南西約 100 m付近の畑地において発掘調査が実施され、炉跡１基、柱穴数基などが確認されている。令和４年度は平成 14 年度調査地の隣接地で発掘調査を実施した。現況の地目は畑である。調査期間は令和４年６月 13 日～６月 24 日で実働は５日間である。機械掘削と人力掘削を併用し、特に遺構に近い部分は人力による調査を行った。対象地に１トレンチ（1.5 m×５m）及び２トレンチ（２×2.6 m）のトレンチを設定し、調査面積は 12.7㎡である。

調査の結果、両トレンチともに、約 0.3 ～ 0.8 m の厚さで盛られた造成土があり、その下に近現代の耕作面を確認したが、近現代の攪乱がその下の面まで影響を与えている。造成土の下端は①トレンチで標高 1.8 ～ 1.6 m、②トレンチで標高約２～ 1.9 mを測り、北西方向に地形が下がっていることが分かる。旧耕作土層は概ね水平堆積であり、近現代の耕作面以下は細砂層を主体とする。１トレンチでは近現代の面から約 0.2 m掘り下げた時点で、小振りな安山岩の板状礫がやや密な状態で面的に広がる状態を確認した。礫は約 0.2 mの厚さにわたり確認でき、若干上下動があったことが窺える。これらの礫を被覆する砂の中から、微量であるが 12 ～ 13 世紀頃のものと考えられる土師質土器片が出土しており、この頃の遺構である可能性が高い。なお、これらの礫の平坦面が概ね水平になっていることから、砂の面の上に礫を敷いていたものと考えられ、その状況から砂の面を覆う礫敷遺構が存在したと判断した。２トレンチでは柱穴及び土坑を確認したが、近現代の攪乱と考えられる。下位の掘り下げに際し、１トレンチ同様安山岩の小振りな板状礫が散漫に出土した。ほぼ１面であり、１トレンチほどの密度は無い。

（4）報告会の概要

令和３年度には新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い中止となった報告会を、令和４年６月に直島町地域づくり人材育成センターにて、積浦遺跡の発掘調査実施期間中、発掘調査現地説明会と共に実施した。また、令和４年度報告会については令和５年３月に総合福祉センター劇場ホールにて実施した。６月開催時は約 50 名の参加を得たほか、３月開催時には約 60 人の参加を得た。



第 17 図　積浦遺跡　トレンチ配置図 (1/300)

写真 25　1 トレンチ礫敷遺構検出状況（北から）